

保育所等訪問支援 と 自社系列通所事業所 を併用利用する児童においての 情報共有の効率化 および 支援の質の向上 を図る

課題

【保育所等訪問支援】⇔【自社系列通所事業所】
の情報共有に係る時間とその手段について

児童発達支援センターGIFTの系列事業所として、
【スタジオGIFT 光の森（児発）】および
【Switch 宇土（児発・放デイ）】があり、
それぞれの事業所に通所しながら、児童発達支援セ
ンターGIFTで提供している「保育所等訪問支援」
を併用してご利用いただいているケースが多数ある。

保育所等訪問支援の提供に際し、担当の訪問支援員
が併用通所事業所に対し、利用児の様子や支援状況
等の情報の聴き取りおよび訪問後のフィードバック
を行っているが、コロナウイルス蔓延に伴う事業所
間の人の往来自粛をしている
ため、近年では電話での共有を
行っていた。しかし、対面時と
比較すると言葉で伝えられる
量と時間が制限されてしまい、
従前よりも細やかな情報共有が
行えていない状況であった。



ICT機器 導入

導入機器名

- 共有システム
サーバー
(セキュリティ機能付)
(バックアップ機能付)
- iPad
(Wi-Fiモデル)

成果

①業務の量的な効率化

共有システムサーバーの導入により、互いの事業所の
サービス提供記録や個別支援計画書(※従前より電子化済)等
の利用児に関する情報を、自事業所のPCからいつでも
閲覧できるようになった。また、iPadの導入により、
訪問支援員が訪問先(園や学校)での利用児の様子を写真
や動画撮影することができるようになり、さらに、それら
を共有システムサーバー上へアップロードすることで、
併用通所事業所へも共有できるようになった。その結果、
訪問支援員 ⇔ 併用通所事業所 の情報共有に係る時間を
削減することができた。(必要時のみ電話にて共有する)

②業務の質の向上

互いの事業所の情報が細やかに共有
できるようになったことで、利用児
の所属先(園や学校)も含めて一環
した支援が提供できるようになり、
療育の質の向上へとつながった。



法人名：一般社団法人志誠会

事業所名：児童発達支援センターGIFT

(児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援)

業務効率化のステップ

①導入前の検討状況

- ・現在、保育所等訪問支援のご契約者様が約130名程おり、訪問支援員1人あたりの業務量が多く、処理に時間を要していた。保護者様や訪問先(園や学校)との連絡調整等の対外的な業務は継続して実施すべくため、訪問支援員と自社系列通所事業所における「情報共有の業務」についての簡略化および効率化について検討を行い、ICT機器類を導入することで、訪問支援員の業務効率化および処理時間の短縮を図る。

②導入内容(詳細)

- ・《共有システムサーバー》3事業所間(スタジオGIFT光の森⇔児童発達支援センターGIFT⇔Switch宇土)で専用ネットワークを構築し、各々の事業所で作成するサービス提供記録や個別支援計画書等を、自事業所のPCから閲覧可能にすることで、効率的に情報共有ができるようにする。
- ・《iPad》3事業所間での更なる情報共有の強化ツールとして、訪問支援員が訪問先(園や学校)にて利用児の様子を撮影し、その写真や動画を共有システムサーバー上へアップロードすることで、併用通所事業所が自事業所のPCから閲覧することができるようにする。

③導入における問題点の洗い出し・それに伴う改善点

利用児の個人情報漏洩に対する対応策

- ・《共有システムサーバー》業務用のセキュリティ機能が付帯した機器を導入する。
- ・《iPad》社外でインターネットに接続されないよう、Wi-Fiモデル(ネット開通なし端末)を導入する。
また、訪問先にて利用児童の撮影を行う際は、事前に利用児の保護者様と訪問先から承諾を得るようにする。



職員の声など

※《訪問》訪問支援員より / 《通所》併用通所事業所の児童指導員より

【良かった点】

- ・《訪問》併用通所事業所で作成したサービス提供記録がPCで閲覧できるようになったことで、直近の利用児の様子まで詳細に分かり、今まで電話聴き取りに要していた時間を他の業務に充てられるようになった。
- ・《通所》訪問支援員が動画撮影をし共有してくれることで、園での利用児の様子を知ることができ、自事業所での環境設定や支援方法および内容等を、より利用児に合わせて検討することができるようになった。

【悪かった点】

- ・《訪問》訪問先(園や学校)でのiPad撮影時には、利用児以外の他者が写り込まないように撮影時には十分に配慮する必要がある。

【今後の課題・その他】

- ・セキュリティ機能付きの共有システムサーバーの導入であるため、サーバー内に侵入してくる外部ウイルスを防ぐ機能はあるが、ウイルスも近年巧妙化し続けていることに留意し、今後は3事業所それぞれで固定IPアドレスを取得し、自社独自のVPNインターネット回線の構築を検討する。